

事例

地域の食文化の継承
(第37回国民文化祭「^{ちゅ}美ら島おきなわ文化祭2022」)

文化庁では、都道府県等と共催で、観光やまちづくり、国際交流、福祉、教育、産業等の施策と有機的に連携しつつ、地域の文化資源等の特色を生かした文化の祭典として、「国民文化祭」を昭和61（1986）年から開催しています。

令和4（2022）年10月22日から11月27日まで開催された第37回国民文化祭「美ら島おきなわ文化祭2022」では、沖縄の伝統料理から現代料理まで、沖縄の食文化を学びながら楽しむイベント「沖縄食文化フェスティバル」を開催しました。

○沖縄食文化フェスティバル（11月19日・20日 ^{なごし}名護市21世紀の森屋内運動場等（沖縄県名護市））

会場では、琉球料理や琉球の歴史の研究家等による沖縄食文化トークショーや芸能などのステージイベント、パネル展示、沖縄そば打ち体験や琉球菓子づくり等のワークショップ、物産品販売や飲食店舗ブース等を設け、沖縄食文化の魅力を楽しめる内容とし、県内外に沖縄の食文化を発信しました。中でも、沖縄流“食”のおもてなし体験ブースでは、せりふ・音楽・踊りで構成される沖縄独自の歌舞劇である組踊^{くみおどり}や琉球舞踊の演舞を鑑賞しながら宮廷料理を試食する「美ら島宮廷レストラン」が実施され、子供からお年寄りまで幅広い世代の来場者が琉球王朝時代のウトゥイムチ（おもてなし）を体験し、楽しみました。

また、名護市教育委員会の協力の下、同イベントの連携企画として名護市内35か所の幼稚園、小・中学校の学校給食で琉球料理や沖縄料理を提供しました。名護市立屋部^{やぶ}小学校では琉球料理を学ぶ特別授業を行い、その後の給食では琉球料理が琉球漆器に盛り付けられて提供され、子供たちが楽しみながら沖縄の食文化に触れました。



トークショー「泡盛の多様性」



沖縄流“食”のおもてなし体験



学校給食での琉球料理の提供